

2018年3月期 決算説明会 質疑応答

(回答者)

代表取締役社長 櫻井昭彦

取締役常務執行役員 営業統括本部長 高橋正憲

<質問1>

リチウムイオン電池用関連設備商談について、今後の展開等についてももう少し詳しく教えてください。

<回答1>

(高橋)

リチウムイオン電池用関連設備商談につきましては、現進行期では約200億円の売上高を計上する見込みであります。内訳につきましては、2018年3月期の契約残からの売上計上が約170億円。2019年3月期の当期受注当期売上が約30億円となっております。

また、受注見通しにつきましては、現進行期は約130億円を見込んでおります。

本商談につきましては、お客様より新たな引合を頂いておりますので、引き続き受注拡大に向けて積極的に取り組んで参りたいと考えております。

(櫻井)

当社が主に中国で進めているビジネスは、電気自動車業界向けの商談でございます。

今後、電気自動車の競争力が求められることもあり、当社は、取り扱っております装置につきまして、コストダウンを意識して、改良を踏まえた新たなプロセス装置や、新素材等をメーカーと共に開発するなど、常に進化した設備の提案を行っております。

電気自動車につきましては、現在、当社が取り扱っているアイテムは、一部の分野に留まっていると思っております。自動車の軽量化には、新素材が使用されますし、電気自動車を更に進めて参りますと、電気自体の最適配分であるスマートグリッド等、様々な商材が増えてくると思います。電気自動車の分野には、様々な広がりがあると思っておりますので、機械という1つのアイテムにこだわらず、幅広い視野で対応して参りたいと考えております。

<質問2>

2019年3月期のセグメント別の利益予想を教えてください。

<回答2>

(櫻井)

2019年3月期のセグメント利益につきましては、通期で、

電力事業 約13億円

化学・エネルギー事業 約10億円

産業機械事業 約18億円

素材・計測事業 約1.5億円

グローバル事業 約5億円 の内訳でございます。

<質問3>

2018年3月期のセグメント利益が赤字であった素材・計測事業とグローバル事業の黒字化する理由について教えてください。

<回答3>

(櫻井)

素材・計測事業につきましては、同セグメントに属している関係会社を含めた業績の立ち直りを見込んでおります。

また、グローバル事業につきましても、同様に同セグメントに属している海外子会社の業績回復が見込まれることから、両セグメントとも黒字化を予想しております。

<質問4>

2019年3月期の営業利益予想について、増額要因を教えてください。

その中には販管費の抑制による利益増も含まれているのでしょうか。

<回答4>

(櫻井)

営業利益の増加予想につきましては、営業的な収益の拡大が要因であります。

また、販管費につきましては、前年度と同水準で予想しております。

<質問5>

2018年3月期は、特別利益（投資有価証券の売却益）や、特別損失（子会社の特損）がありました。2019年3月期は同様の特別損益が見込まれるのか教えてください。

<回答5>

(櫻井)

現進行期につきましては、そのような特別損益は見込んでおりません。

<質問6>

2018年3月期に計上されました中国子会社の貸倒引当金につきまして、回収状況、回収見通しについて教えてください。

<回答6>

(櫻井)

本件につきましては、契約に基づき回収に向けて努力をしている最中でございます。

先方との交渉、手続きの段階でございます。詳細につきましては、回答を差し控えさせていただきます。

以上

(将来の予測に関する注意事項)

本資料にて開示されておりますデータおよび将来に関する予測につきましては、本日現在入手可能な情報に基づくものであり、予測不能、もしくは不確定な要因により、大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。